

令和6年度大規模土砂災害合同防災訓練(上松町)を実施しました

- 多治見砂防国道事務所では、大規模土砂災害発生時における関係機関との連携強化を目的とし、管内6市町村（多治見市、土岐市、中津川市、南木曽町、大桑村、上松町）において、順次合同防災訓練を実施しています。
- 今年度は、上松町において台風に伴う過去最大級の豪雨により大規模な深層崩壊に伴う河道閉塞が発生したことを想定し、上松町、長野県及び国土交通省の各機関が質疑応答型式での訓練を実施しました。
- 訓練を通して、各機関における対応を相互に確認し、連携の強化及び災害対応能力の向上を図ることができました。

【訓練日時】 令和6年6月20日(木) 13:30～16:30

【訓練会場】 上松町ひのきの里総合文化センターホール

【参加者】 上松町、長野県(危機管理部・建設部・木曽地域振興局・木曽建設事務所)
中部地方整備局(河川部・多治見砂防国道事務所)、長野地方気象台

28名(うちWEB2名)

【見学者】 岐阜県、多治見市、中津川市、南木曽町、大桑村、岐阜地方気象台、
名古屋大学御嶽山火山研究施設

18名(うちWEB4名)



長野県

【質疑応答形式訓練】

進行役が災害シナリオに沿って、各機関の対応に関する質問を投げかけ、訓練参加者に回答を求めることで災害対応にかかる気づきを促す会話進行型の訓練

各機関が災害時の対応について回答



国土交通省



上松町



上松町長

本日の訓練は町、県、国の関係機関が自ら考え、どこに伝えるのかということ改めて確認することが目的。訓練の中で、課題、問題点をみつけ、いかに修正していくかが重要。



多治見砂防国道事務所長

訓練を通し、各機関の防災力を高め、各機関の連携を深めることで、地域の安全安心がこれからも確保されることを期待。



合同防災訓練会場の様子



長野県
木曽建設事務所長

進行役からの質問に対して、各機関が状況に応じた的確に回答していた。各機関が連携して対応することが、地域住民の被害の防止・軽減に直接結びついていくのではないかと。過去の経験や訓練を生かして、災害が発生した際に、しっかり対応できるよう準備していただきたい。

実際の災害時は、ストレス・プレッシャーがかかる状況で対応しなくてはならない中、今回の訓練は実災害に近い形で実施できた。関係機関が連携して対応できるよう備え、普段からしっかりコミュニケーションをとり、顔の見える関係を構築していきたい。



中部地方整備局
総合土砂管理官

◆講評◆